

【上市町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

第1期 GIGA スクール構想の下で示された「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月・学習指導要領及び中央教育審議会答申）では、ICT 環境の整備と活用により、児童・生徒1人1人の個に応じた指導により主体的・対話的で深い学びの実現について「個別最適な学び」並びに探究的な学習や体験活動等を通じ、子ども同士や多様な他者と協働し、多様な社会の変化に対応できることができる資質・能力を伸ばす「協働的な学び」の充実を図ることが必要であるとされている。

また、「上市町情報教育計画」において「目指す子供の姿」として、次のように定めている。

- (1) コンピュータとの情報端末の活用を楽しみ、日常の道具として使いこなす子供（情報活用実践力）
- (2) 論理的な思考を身に付け、コンピュータ等の情報端末を活用して問題解決しようとする子供（論理的思考）
- (3) マナーやルールを守り、安全にネットを使う子供（情報モラル）

2. GIGA 第1期の総括

コロナ禍において急速に進められた GIGA スクール構想下における学校 ICT 環境の整備では、令和2年度には、町内全小中学校において児童・生徒の1人1台端末や高速ネットワークを導入したほか、これらを活用した学びの実現のため、授業支援ツール及びクラウド型の AI 学習支援ツール（学習ドリル）の導入並びに令和3年度には、各学校へ電子黒板等の整備を進めてきたところである。

また、子どもたちの学びを支える教員の ICT 環境についても、教員用タブレット型端末や統合型校務支援システム等を整備し、これらにより新型コロナウイルス感染症対策としてリモートによる授業の展開が進められたほか、家庭での端末を用いた学習などが実現されてきた。

一方で、第2期 GIGA スクール構想を迎える中、これまでの ICT 環境の活用については、各学校や教員、学級間において格差が生じてきているように見受けられる。

ICT の活用にあっては、教員の ICT スキルの定着が必要であり、このサポートのため、ICT 支援員や GIGA スクール運営支援センターを整備してきたところであるが、ICT 活用への苦手意識や積極的な活用への抵抗感などを抱く教員が少なからずいるため、町として ICT を活用した学びの実現をより一層進めていくためにはあらためて学校間や教員間での共通認識等を図っていく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用について

本町における第2期 GIGA スクール構想では、令和7年度に各 ICT 環境の更新時期を迎えることとなっており、児童・生徒1人1台端末や、授業支援ツール及び学習支援ツールなどの更新に合わせ、利用端末やツールの選定を行うこととしている。

すでに児童・生徒1人1台端末にあつては、Chrome OS 端末の導入が決定しており、現行の Windows OS 端末で課題となっていた点の解消を図り、クラウドベースでの学びの環境により、町内全ての学校において、積極的な端末の日常的な活用を推進していくこととする。

また、児童・生徒による端末の活用を支える教員への ICT 活用のサポートについては、研修会の実施や ICT 支援員の活用等により、引き続き利活用のハードルを下げ、町内の学校によって ICT 活用に差が生じることをないように、必要な取り組みを講じていくものとする。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

児童・生徒1人1台端末の活用により、調べ学習や自分の考えのまとめ作業並びにグループ学習等での発表シーンなどにおいても効果的な活用が出来るよう、日常的な文房具として積極的な活用を図ることができるよう取り組んでいくこととする。

また、端末を活用した学習で得られる学習データを利活用することで、学校が児童・生徒1人1人に応じた最適な学びにつながる指導を行うことができるよう、よりよいデータの利活用方法などを検討していくこととする。

(3) 学びの保障について

多様な子どもたちが通う学校においては、全ての児童・生徒が平等な学びの機会を持つことができるよう、例えば様々な理由により登校が難しい児童・生徒への支援として、端末等の ICT を活用したオンラインによる学習支援を行うことなどを推進し、誰1人取り残すことのない教育環境を目指していくものとする。